
カタログと一点もの 大連

matsuura

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

力タログと一点もの 大連

【Zコード】

Z0399Z

【作者名】

matsuura

【あらすじ】

彼は再婚だ。

中国人の女性と2回結婚した。

カタログから結婚相手を決めるような婚活は失敗の元だ。
カタログと一点ものでは質が違う。

1. 一回目

「彼は、再婚だ。」

今年春、彼は、大手建設会社を退職した。

彼は、8年前、妻と死別している。

「第二の人生、出直そう」

「だけど、独りでは寂しい」

「独りで生きて行けるほど、自分は、強くない」

「贅沢は言わない」

「残りの人生、ちょっとぴり素敵なロマンスに^{あやか}専りたいな」と、彼は思つた。

彼にとつては、2度目の中国人女性との結婚である。

初めて、中国人女性と結婚した時は、相手を東京の結婚紹介所を通じて知つた。

ほんの軽い旅行感覚で、彼は、大連お見合いツアー（結婚紹介所主催3泊4日）に参加した。

彼が、東京で選んだ女性を、現地のお見合いパーティで会つて確認する。

気に入ると、その女性が大連滞在中、ずっと、彼をアテンドしてくれた。

彼は、

「自分が選んだ相手の女性も、自分のことを心底気に入ってくれていた」と感じた。

三ヶ月後、彼は、大連のお見合いパーティで選んだ相手と結婚した。

「錯覚をしていた」

結婚一週間後に、彼は気が付く。

「自分が選んだ相手は、日本人と結婚するのが商売のようである」

「日本に住むために、日本人男性と結婚する中国人女性も多い」
そう考えると、彼は、自分の妻の顔を見るのも嫌になり離婚した。
彼は、自分の結婚に対する考え方の甘さと愚かさを痛感した。
併せて、中国人女性の強な一面も知る。

日本人と中国人が結婚して5年後に、幸せな結婚生活を継続している夫婦の確率は、約3%だそうだ。
物凄い、低打率である。

この数字は、中国人女性と結婚した知人が教えてくれた数字だ。

2・二回目

彼は、まるで通信販売のカタログから、自分の気に入った商品を選ぶような感覚で結婚相手を決めたことを反省している。

「今度は、失敗しない」と、彼は思った。

二度目の結婚は、恋愛結婚だった。

結婚の相手は、大連の友人の紹介である。

前回の失敗した経験を活かして、彼は、マイペースでじっくりと相手を観察してから結婚を決めようと考えた。

彼の相手は、大連の日系企業の経理課に勤めていた。日本語もできる。

彼女は、再婚で、一児がある。

子供は、別れた主人の家が引き取って育てている。

別れた主人とは、恋愛結婚だった。

今、彼女は、独り暮らしをしている。

経理業務に関しては優秀なのが、彼女は、結婚に恵まれなかつた。

別れた主人は外泊も多く、お金に困ると、彼女に内緒で、家に有る金目の物を手当たり次第に持ち出した。

彼女は、結婚生活で苦労した。

一度目の結婚で、彼女が苦労したことが、今の彼との結婚生活をスムーズにさせている。

彼女は、私が大連のホテルで働いていた時の部下だった。

今は、時々、夫婦喧嘩もするが、彼らの夫婦生活は順調らしい。

「一度目の結婚は、カタログを見て商品を選ぶような調子で自分の奥さんを決めたのが間違いだった

「カタログで選ぶのと、一点物を選ぶのは違う。離婚率の高い婚活は、時間の無駄だった」と、彼は、後悔している。

どうも、カタログと一点物では質が違うようだ。了

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0399z/>

カタログと一点もの 大連

2011年12月1日17時54分発行